



タイトル「**2024年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1166		
科目名	教養特殊講義 6		
担当教員	中林 啓修		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 3		
講義室	1202	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合		
科目小分類	自然科学その他		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 〔DP1-D〕 市民的素養・市民的教養 市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。 〔DP4-I〕 理解力・分析力 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 〔DP7-C〕 他者理解・倫理観・公共心 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 D 1 市民的要素と参加：3 0 % I 1 理解・分析と読解：2 0 % I 2 量的分析：1 0 % I 3 情報分析：2 0 % C 1 倫理的思考・社会認識：2 0 %		
教員の実務経験	担当教員は、これまでに沖縄県庁での安全保障や危機管理に関する調査や自治体としての政策立案に携わった経験（2013-2015年度）や、人と防災未来センター研究員として内閣府防災や兵庫県と協力して、被災自治体の災害対応の支援に従事するなどの経験（2016-2019年度）をしてきました。本講義では、それらの経験を活かし、日本の危機管理について、防災と国民保護の2つを柱に、制度や実態などをわかりやすく伝えていきます（2-14回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 1 萌芽期～2 進行情		
科目概要・キーワード	自然災害が多く、かつ厳しい安全保障環境に置かれている日本では、諸外国以上に、安全保障、危機管理および防災の概念上あるいは実務上の接近が見られる。例えば、自衛隊による日本国内での災害対応（災害派遣）は、手続き上も活動内容も諸外国の類似の制度より柔軟になっている。また、有事対応のしくみである国民保護などは防災の諸制度をベースに設計されている。こうした日本の危機管理の特徴を踏まえて、本講義では、軍事組織の災害対応（自衛隊等の災害派遣等）や国民保護措置など、危機管理や安全保障、防災など相互に関連する学問領域にまたがって展開される活動を具体的事例や講師の持つデータ等を活用して概観していく。あわせて、効果的な危機管理の方法論についても検討していく。 授業形態は講義形式により行う。なお、対応するコンピデンスに基づき効果的な授業方法と		

	して、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合がある。 ■キーワード：危機管理、安全保障、防災、災害派遣、国民保護								
授業の趣旨	■副題 複合的領域としての日本の危機管理 ■授業の目的 本講義は様々な概念の上に成り立つ日本の危機管理の仕組みについて、理解し、説明できるようにすることを目標とする。そのために、軍事組織たる自衛隊の災害への関与や、住民の広域避難を含む国民保護措置などの具体事例に触れることで、危機対応における民主的統制や安全確保と人権など、民主主義社会の危機管理を考える上で不可欠な視座を獲得することを目的とする。 ■授業のポイント 具体例を、より高次の論理的思索につなげることの重要性やその感覚の体得が可能になるよう、毎回の授業のまとめにおいて、単に取り扱った具体的j例を振り返るだけでなく、そこから導き出せる概念上の課題や論点についても考える機会を提供していく。								
総合到達目標	様々な概念の上に成り立つ日本の危機管理の仕組みについて、理解し、説明できるようにする。特に、軍事組織たる自衛隊の災害への関与や、住民の広域避難を含む国民保護措置などの具体事例に触れることで、危機対応における民主的統制や安全確保と人権など、民主主義社会の危機管理を考える上で不可欠な視座を獲得でいるようにする。								
成績評価方法	■小テスト：14回（70%） 第2回以降、毎回授業時間内に小テストを行う。 小テスト後、当日の内容復習として簡単な解説を行う。 なお、13回および14回は小テストにかえて簡単な個人ワークを授業内で課す可能性がある（受講人数に応じて決定し第3回以降に告知する） <適用ルーブリック> D 1 市民的要素と参加 I 1 理解・分析と読解 I 3 情報分析 ■レポート：2回（予定）（30%） 第7回の授業後および第12回の授業後に2000字程度のレポートを課す。第8回冒頭および第13回冒頭で良好だった内容や留意すべき内容などを解説する。 <適用ルーブリック> D 1 市民的要素と参加 I 1 理解・分析と読解 I 2 量的分析 I 3 情報分析 C 1 倫理的思考・社会認識 ■(適用ルーブリック-割合) D 1（30%）、I 1（20%）、I 2（10%）、I 3（20%）、C 1（20%）								
履修条件									
履修上の注意点									
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 講義で扱う基礎概念の説明や授業構成、成績の考え方など授業のガイダンスを行う。 ③予習（60分）シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習（60分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。</td></tr><tr><td>2</td><td>①授業テーマ 危機管理と関連概念 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、危機管理、安全保障、防災など、相互に関連する学問領域の相互関係を概観していく。<D1,I1,I2,I3,C1> ③予習（120分）危機管理と防災の共通性と違い、安全保障と危機管理の関係性について調べ、自分なりの考え方を整理しておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。</td></tr><tr><td>3</td><td>①授業テーマ 軍事組織による災害対応(1)：理論と戦前の日本 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、自衛隊や米軍などの軍事組織の災害対応への関わりについて論じる。本回では、一般的な議論および戦前の日本を事例として取</td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 講義で扱う基礎概念の説明や授業構成、成績の考え方など授業のガイダンスを行う。 ③予習（60分）シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習（60分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。	2	①授業テーマ 危機管理と関連概念 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、危機管理、安全保障、防災など、相互に関連する学問領域の相互関係を概観していく。<D1,I1,I2,I3,C1> ③予習（120分）危機管理と防災の共通性と違い、安全保障と危機管理の関係性について調べ、自分なりの考え方を整理しておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。	3	①授業テーマ 軍事組織による災害対応(1)：理論と戦前の日本 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、自衛隊や米軍などの軍事組織の災害対応への関わりについて論じる。本回では、一般的な議論および戦前の日本を事例として取
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 講義で扱う基礎概念の説明や授業構成、成績の考え方など授業のガイダンスを行う。 ③予習（60分）シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習（60分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。								
2	①授業テーマ 危機管理と関連概念 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、危機管理、安全保障、防災など、相互に関連する学問領域の相互関係を概観していく。<D1,I1,I2,I3,C1> ③予習（120分）危機管理と防災の共通性と違い、安全保障と危機管理の関係性について調べ、自分なりの考え方を整理しておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。								
3	①授業テーマ 軍事組織による災害対応(1)：理論と戦前の日本 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、自衛隊や米軍などの軍事組織の災害対応への関わりについて論じる。本回では、一般的な議論および戦前の日本を事例として取								

	り扱う。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）戦前の日本における軍事組織の災害対応について調べておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
4	①授業テーマ 軍事組織による災害対応(2)：災害派遣の仕組みと論点 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、自衛隊による災害派遣の制度や実際の運用について、自治体の立場から論じていく。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）自衛隊の災害派遣がどのような制度に基づいているのかについて調べておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
5	①授業テーマ 軍事組織による災害対応(3)：自衛隊による災害派遣史 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、自衛隊による災害派遣の経緯や全体的な傾向について検討していく。本回では、警察予備隊時代以降の通史的な状況について取り扱う。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）東日本大震災以前の自衛隊の災害派遣について調べておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
6	①授業テーマ 軍事組織による災害対応(34)：災害派遣の現況 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、2006年の防衛省発足以降の自衛隊による災害派遣の状況や自衛隊自身の認識について取り扱う。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）東日本大震災以後の自衛隊の災害派遣について調べておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
7	①授業テーマ 軍事組織による災害対応(5)：米軍による日本国内での災害救援 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、2006年の防衛省発足以降の自衛隊による災害派遣の状況や自衛隊自身の認識について取り扱う。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）トモダチ作戦について調べておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
8	①授業テーマ 事態対処と国民保護(1)：有事対応に関する制度概要 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、日本での有事対応のための制度について概観する。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）有事対応に関する日本の関連制度を調べておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
9	①授業テーマ 事態対処と国民保護(2)：国民保護法制度の概要 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、国民保護法制度の概要についてより詳しく解説する。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）国民保護法制度の内容や課題を調べておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
10	①授業テーマ 事態対処と国民保護(3)：国民保護法制度の運用 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、近年の国民保護訓練等を通じて検討されている国民保護法制度の運用の考え方や方法について概観する。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）2023年以降の国民保護訓練について調べておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
11	①授業テーマ 事態対処と国民保護(4)：緊急対処事態への対応 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、大規模テロやグレーゾーン事態といった事態対象法や国民保護法に定める「緊急対処事態」に対する対応の考え方や課題について論じる。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）「緊急対処事態」の概要や近年の訓練状況について調べておく。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
12	①授業テーマ 事態対処と国民保護(5)：有事対応に関する制度の課題 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、日本での有事対応のための制度が抱える課題を概観する。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）第8回以降の授業を復習し、日本の有事対応の法制度の課題を自分なりに考えてくる。

	④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。 13 ①授業テーマ 危機管理の方法論(1)：目標管理型災害対応 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、これまでの講義内容から具体的な危機対応において有効な方法論を検討していく。本回では、2004年の中越地震での自治体の災害対応を契機に開発された主に自治体向けの災害対応の方法論である目標管理型災害対応について取り扱う。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）効果的な危機対応に必要な組織的な考え方を自分なりに調べ、考えてくる。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。 14 ①授業テーマ 危機管理の方法論(2)：作戦術 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、これまでの講義内容から具体的な危機対応において有効な方法論を検討していく。本回では1970年代以降、西側諸国の軍事組織を中心に、危機対応の一般的手法となっている作戦術を中心に扱う。＜D1,I1,I2,I3,C1＞ ③予習（120分）作戦術という言葉の意味やその具体的内容を調べてくる。 ④復習（120分）講義資料を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。 15 ① まとめ ② 講義内容全体を振り返りまとめとして重要事項を再確認する。
関連科目	RMGT3501災害対策論、RMGT3521安全保障政策論、RMGT3522国民保護などに関連がある。
教科書	毎回授業資料を配布する。
参考書・参考URL	毎回の授業資料で示す。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先：開講時に告知する ■オフィスアワー：開講時に告知する
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント40%；パブリックセキュリティ40%；グローバルセキュリティ10%；情報セキュリティ10% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学60%：法学40%

